



第47期 事業報告書

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで



近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

経営理念

『さわやかさ創造企業』

近畿コカ・コーラボトリンググループは、
人々のうまいと豊かさにつながる機会を創造します。
人々の期待感や先進感にこたえます。
人々の健康な生活に貢献します。

ビジョン2006

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、
1本1本の製品を業界No.1のオペレーションで提供し、
より多くのお客様にさわやかなひとときをお届けします。
お客様を、お客様満足を実現するパートナーとして
大切にし、共に成長します。
ひとりひとりがお客様満足を常に追求し、
やりがいと誇りをもって自己の役割と目標を完遂します。
日々の健全な企業活動を通じ、毎年、増益を達成します。

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当期の清涼飲料業界におきましては、前年の記録的な猛暑の反動もありましたが、市場全体はわずかに成長したものと見られます。しかし、熾烈な企業間競争が繰り広げられ、販売数量確保のための量販店における価格競争や販促費用の増加など企業収益を圧迫する厳しい経営環境が続いています。

このような状況下において、当社グループは中期経営計画の達成に向け、前期に引き続き「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を両輪とする基本戦略に基づいた事業活動にグループを挙げて取り組みました。

今後のわが国の経済情勢は、堅調に回復していくものと思われませんが、清涼飲料業界におきましては、今後も企業間競争の激化により経営環境は厳しさを増すものと見られます。

そのような中、当社におきましては、コカ・コーラウエストジャパン株式会社と平成18年7月1日(予定)をもって、共同持株会社「コカ・コーラウエストホールディングス株式会社」を発足させ、両社の経営を統合することといたしました。両社が一体となって盤石な経営基盤を築くことにより、企業価値の増大、日本のコカ・コーラビジネス変革のリーダーシップの発揮、経営基盤の強化、営業力の強化を目指します。また、平成18年度は中期経営計画最終年度であり、次期中期経営計画へ繋げるための重要な一年として、お客様とのダイレクトコミュニケーションの拡充やCSR活動を推進するほか、執行役員制度の導入など当社グループガバナンスの改革により、長期的成長が持続できる経営基盤を確立し、当社グループの企業価値向上に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成18年3月

代表取締役
社長執行役員

守都正和





ヨドバシカメラ マルチメディア梅田前での
サンプリングの様子

「一(はじめ)」



明石ロジスティクスセンター



2005年
主な新製品

緑茶の新商品「一(はじめ)」を投入

販売面におきましては、フレッシュネス活動などによる品質管理強化や、地域ファン作りを推進するため地域イベントへの協賛を拡充したほか、お客様との購買接点の拡大やお得意様への提案型営業を更に展開するなど販売基盤の強化を図りました。また、5年ぶりとなるジョージアブランドの全面リニューアルや、新広告キャンペーンの展開などによりブランド力の強化を図ったほか、「一(はじめ)」「アクエリアス アクティブダイエット」「ジョージア エスプレッソカフェ」「ジョージア グランデ」などの新製品投入や各種プロモーションを実施し、販売の拡大に努めました。

新サプライチェーンマネジメントの推進

製品の需給面におきましては、コカ・コーラシステムの全製品を全国規模で統括する新サプライチェーンマネジメントが、1月よりコカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社を中心に始動し、当社グループにおきましても明石ロジスティクスセンターの竣工など、新サプライチェーンマネジメントの推進に取組みました。

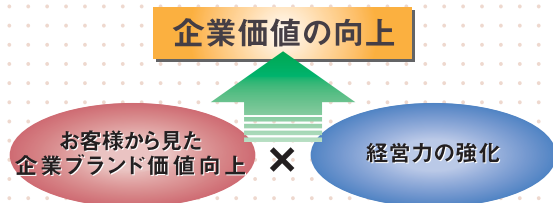
経営力の強化

経営管理面におきましては、社会から信頼される企業グループを目指して、1月より内部監査体制の充実などの組織改革を実施したほか、7月にはCSR本部を新設し、更なる品質保証体制の強化や地域に密着した社会貢献を戦略的に推進するなど、当社グループ全体でCSR活動に取組みました。更に、12月には、激変する市場環境の中で成長を持続するためコカ・コーラウエストジャパン株式会社と経営統合も視野に入れ、「カスタマー・サービスの向上」「サプライチェーンの強化」「業務系システムの拡充」「お客様満足の向上」を内容とする業務提携に基本合意しました(なお、平成18年7月1日に共同持株会社「コカ・コーラウエストホールディングス株式会社」を発足させ、両社の経営の統合を予定しております)。また、同月、当社グループの借入金の圧縮と資産効率の改善を図るため、オートリース事業などを展開する当社連結子法人等であった株式会社レックスリースの当社保有全株式をオリックス自動車株式会社に譲渡しました。

平成17年12月期の業績について

これらの結果、連結売上高は当連結会計年度より新サプライチェーンマネジメントが始動したことに伴い、従来当社が製造し、他ボトラーへ販売していたポストミックス製品等の売上高が約129億円無くなったこともあり、1,809億9千9百万円(前期比6.3%減)となりました。連結経常利益は61億6百万円(前期比21.8%減)となり、連結当期純利益は特別利益として関係会社株式売却益6億5千7百万円などを計上した結果、34億3千5百万円(前期比5.6%減)となりました。

2004～2006年 中期経営計画



「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を両輪とした戦略に基づく活動を通して、企業価値の向上に努めます。

本年度は、目標利益を達成するために、グループ一体となってお客様満足活動を更に活性化するとともに、PDCAを確実に回し、中期経営計画最終年度の仕上げの年といたします。

CSR(企業の社会的責任)活動の強化

当社グループではCSR(企業の社会的責任)に対する重点的な取組みを明確にするため、CSR本部を設置するとともに、CSRを専門的に推進する機能として、地域共生推進部を設置いたしました。私たちは「さわやかさ創造企業」の経営理念のもと、地域とともに成長してきた企業として、地域社会への貢献、環境への取組みを推進してまいります。

CSRビジョン

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、

地域になくてはならない企業となること

地域社会の一員として、信頼される存在となること

地域社会の発展と当社グループの発展が同時に実現されていることを目指します。

「人と人をうるおす Coca-Cola」が動き始めました。

コカ・コーラシステムは、あらゆるステークホルダーから信頼され、選択される企業体となるために、「人と人をうるおす Coca-Cola」のシンボルマークを導入し、企業ブランド「コカ・コーラ」のさらなる価値向上を目指します。

人と人をうるおす
Coca-Cola

「災害時における飲料の提供協力に関する協定」を締結

東南海、南海地震等の大規模災害の発生が懸念されるなか、各行政において、災害救援物資の備蓄がすすめられていますが、このような大規模災害時に、当社の在庫飲料商品を提供することにより、被災者への迅速・的確な応急救助の一助となると考え、2006年1月より大阪府をはじめとする各行政と「災害時における飲料の提供協力に関する協定」の締結をすすめております。これにより、大規模災害発生時には当社物流拠点在庫の開放を行うとともに、災害対応型自動販売機内の在庫を開放し、地域のみなさまに飲料を無償で提供いたします。



当社物流拠点



各行政との調印式の様子

京都工場見学「マジカルエコラのファクトリーツアー」

私たちのお届けする製品の安全性を楽しみながら知って頂くために、京都工場見学「マジカルエコラのファクトリーツアー」を2005年1月よりスタートさせました。大変ご好評を頂いており、2005年は当初計画の2万人を大きく上回る3万6千人以上の方にご来場いただきました。



HPで予約状況を確認できます!! <http://www.kinki.cbcb.co.jp>

明石ロジスティクスセンター竣工

新サプライチェーンマネジメントの本格稼働をうけ、当社グループにおきましても明石ロジスティクスセンターが2005年11月より稼働を開始いたしました。当社では今後もコカ・コーナショナルビバレッジ株式会社との協働により、物流コストの低減に努めてまいります。



◆明石工場苛性ソーダ溶液流出事故について

2005年9月18日、当社子会社の近畿コカ・コーラプロダクツ明石工場において、苛性ソーダ溶液が工場に隣接する赤根川へ流出する事故が発生しました。今回の事故を受けて、当社グループでは緊急対策本部、事故調査委員会を設置し、事故原因の調査を行うとともに、再発防止策、赤根川および河口付近の安全確認策、地域のみなさまに対する取組みなどについて策定いたしました。地域のみなさまおよび関係者のみなさまには、多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

再発防止策について

再発防止策といたしまして、以下の対策を講じました。

- ① 苛性ソーダ溶液小出しタンクに防液堤、飛散防止板を設置するとともに、タンクの材質変更、小型化等、設備の改善を行いました。



- ② 送液の要求信号や供給ポンプの運転時間を監視するとともに、川に繋がる雨水排水枡3箇所にpH計を設置して常時監視するなど、漏洩監視の強化を行いました。
- ③ 操業停止時に送液要求信号が出ないようにするなど、運用の改善を行いました。
- ④ 緊急時のトレーニングの実施、従業員への教育など、管理の改善を行いました。

また、当社グループ全社の再発防止策として、以下の取組みを行っております。

- ① 当社グループの全工場の設備を総点検し、問題がないことを確認いたしました。
- ② 当社グループ全体でのリスク管理体制を再構築いたしました。

赤根川および河口沿岸海域の安全確認策

苛性ソーダ溶液流出による、赤根川および河口沿岸海域への影響の把握、および安全性の確認の為、水質調査、生物調査、底質調査を実施いたしました。

地域への取組みについて

地域のみなさまから頂きましたご要望にお応えできる取組みを行ってまいります。

- ① 「江井ヶ島ため池協議会」への参画や、赤根川の美化運動等に取組みます。



- ② 専門家のアドバイスを頂きながら、赤根川へ稚魚の放流を計画しています。
- ③ 地域でのイベント、行事等に積極的に参加させて頂きます。
- ④ 赤根川拡幅計画促進のため、赤根川に隣接する当社所有地の兵庫県への寄贈を予定しております。

自動販売機を通じた取組み

① 災害対応型自動販売機の設置



東南海、南海地震等の大規模災害の発生が懸念されるなか、当社では「災害時における飲料の提供協力に関する協定」に基づき、災害対応型自動販売機の設置をすすめております。

この自動販売機は、LEDメッセージボードにより、災害情報等のメッセージをリアルタイムで配信することが出来るとともに、災害発生時には遠隔操作によって自動販売機内の在庫商品を無償で提供することが可能です。



② 障がい者スポーツ支援自動販売機

兵庫県にて開催される障がい者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」に出場する選手の支援を目的に、大会マスコットの「はばタン」をあしらった、障がい者スポーツ支援自動販売機を兵庫県庁舎に設置いたしました。この自動販売機の売上の一部は、障がい者の社会参加の促進に役立てられます。



③ ユビキタス街角見守りロボット

当社グループは、産官学共同プロジェクトである「U-Cityコンソーシアム」による、自動販売機を利用した「ユビキタス街角見守りロボット」の実証実験に参加しております。

ICタグの電波を拾うセンサーと、防犯カメラを搭載した自動販売機を小学校の通学路に設置し、ICタグをつけた児童が自動販売機の前を通過すると保護者にメールが配信されるほか、LEDパネルによる防犯情報の提供、非常時の警報などにより、児童の登下校を見守ります。

④ ノンフロン型自動販売機

CO₂を冷媒として使用したノンフロン型の自動販売機を2005年より導入。2020年までには全国のコカ・コーラシステムの全自動販売機98万台をノンフロン型自動販売機に全面的に切替えることを目指しています。



⑤ 自動販売機への住所表示の実施

緊急通報時の一助となるべく、屋外設置の自動販売機への住所表示ステッカーの貼付けを行っています。



⑥ 観光マップの掲示



観光地に設置している自動販売機への観光マップの掲示を行っています。

車両を通じた取組み

①「こども110番」活動への参加

神戸市からの要請をうけ「こども110番」活動に参加しています。神戸市内を走行する当社グループの車両に、「こども110番 青少年を守る車」のステッカーを貼り、「助けをもとめられたとき」や「けが人を発見したとき」には通常業務を中断して救援を行います。



②地球にやさしい車両を購入

当社グループは地域に根ざした企業として、環境問題への取組みを積極的に行っています。営業活動において多数の車両を使用する当社グループでは、従来よりエコドライブの推進等により一定の成果をあげてきましたが、環境負荷低減への更なる積極的な取組みの一環として、地球にやさしい天然ガスを使用したトラック等の導入を進めています。



NGV

スポーツ、教育に対する支援活動

当社グループは創業以来、スポーツ、文化、教育、福祉活動を通じて、地域のみなさまとともに歩んでまいりました。これからも、躍動感や感動を味わっていただけるように、地域に密着した活動を通じてコミュニティーづくりをお手伝いしてまいります。

■プラスエキスポ



小学生から社会人まで毎年6,000人以上が集う音楽の祭典。本年度はさまざまな国の音楽を力いっぱい演奏し、吹奏楽で音楽の世界博覧会が展開されました。

■全日本少年サッカー大会



全国大会出場を目指し、将来のスター選手を目指す小学生が熱戦を展開。当社は協賛企業としてさわやかなプレーを行う選手たちをサポートしています。

■さわやか大阪一輪車競技大会



幼稚園児からベテランまで幅広い層の一輪車愛好家が集う、西日本最大の一輪車競技大会です。

■近畿中学生バレーボール選抜優勝大会



近畿2府4県の地区予選を勝ち抜いてきた中学生による大会です。

コカ・コーラ™生誕120周年



世界中で愛されているコカ・コーラ™は、今年で生誕120周年を迎えます。“Coke, Please!”をテーマに新広告キャンペーンや、プロモーション、大規模なサンプリングを展開してまいります。

コカ・コーラ™限定パッケージ

初代の缶入りコカ・コーラ™を忠実に再現した復刻缶や、1950年代までの広告をデザインしたクラシックデザイン缶をはじめ、さまざまな限定パッケージを展開いたします。



コカ・コーラ™の歴史

コカ・コーラ™は1886年（明治19年）に、ジョージア州アトランタにて、ジョン・S・ペンバートン博士によって生み出されました。その後各地のボトリング工場でびん詰めされるようになり、飛躍的に販路を拡大しました。日本では1957年に製造が始まり、今では全世界約200カ国で1日に10億杯以上も飲まれています。

当社京都工場見学「マジカルエコラのファクトリーツアー」では、コカ・コーラ™の歴史を楽しみながらご覧いただけます。



「一（はじめ）」・爽健美茶リニューアル

爽健美茶、「一（はじめ）」のリニューアルを機に、「飲みやすさ」と「握りやすさ」を考慮した新型のフィットボトルを採用。すべてのお客様の手にフィットする機能的なデザインになりました。



発売から1周年を迎え、さらに“いきいきと みずみずしく”バージョンアップしました。

集めて当てよう！
爽健美茶
2つの元気 プレゼント
3万名様に当たる！

爽健美茶 限定
矢井田瞳LIVE
5月15日 7,500円、15,000円

爽健美茶 限定
Earl Jeanne ティム
5月15日 5,000円

5月15日(月) 当日消印有効
<http://sokenbicha.jp>

芽吹きの子カラ溢れる4つの素材「発芽玄米」「大麦若葉」「明日葉」「キヌア」を新しく加え、全12種類の素材をすっきり飲みやすくブレンドしました。

ファンタ

ファンタの「ポップ」で「はじける楽しさ」を表現するバブルボトルを採用

ジョージア

機能性飲料

カルピス社との共同プロジェクト第一弾商品「心地よい毎日™ L-92緑茶」をはじめ、忙しいあなたのコンディション維持をサポートします。

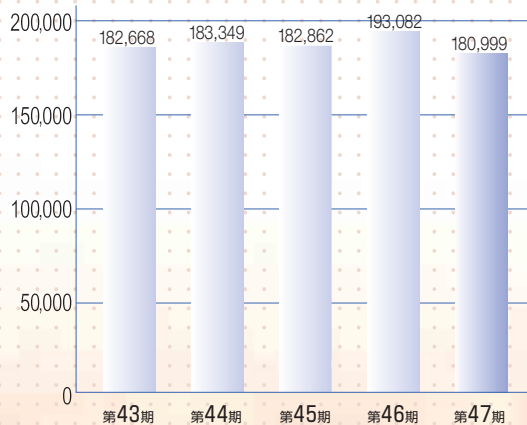
カナダドライ ジンジャエール

さらにDRYになった大人向け炭酸飲料

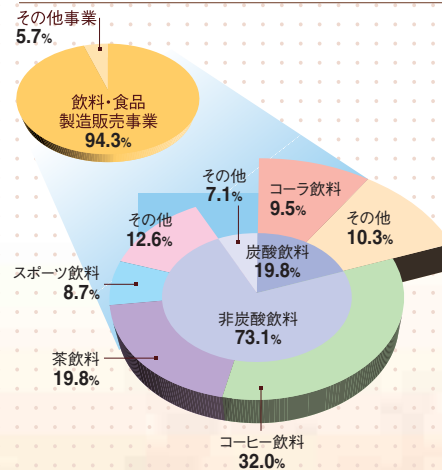
財務ハイライト(連結)

■売上高

単位:百万円

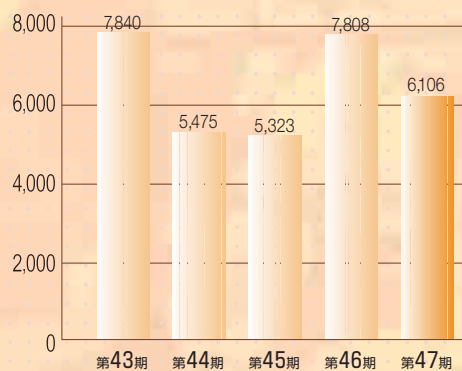


■売上高構成比 (第47期)



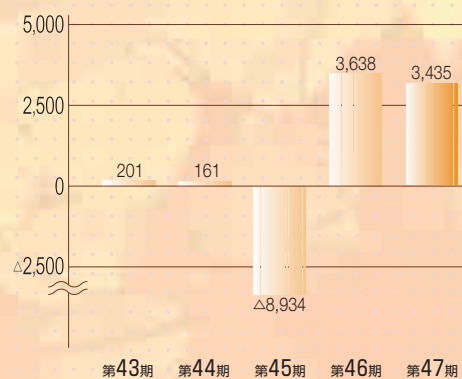
■経常利益

単位:百万円



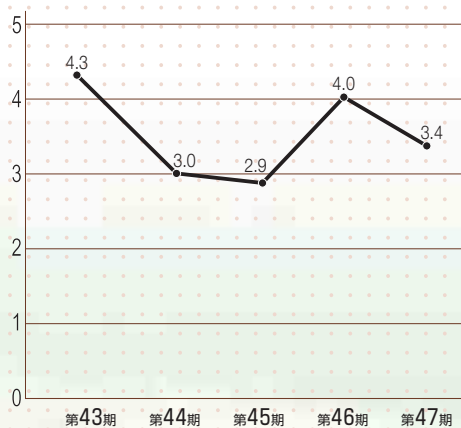
■当期純利益又は当期純損失

単位:百万円



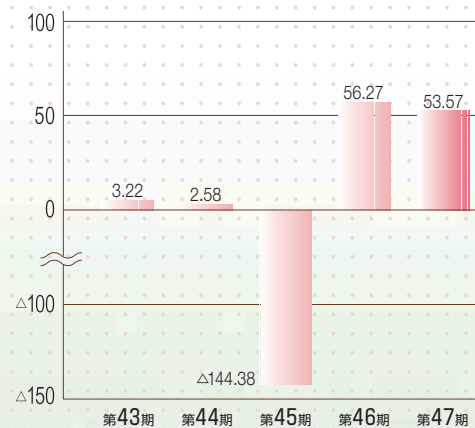
■売上高経常利益率

単位:%



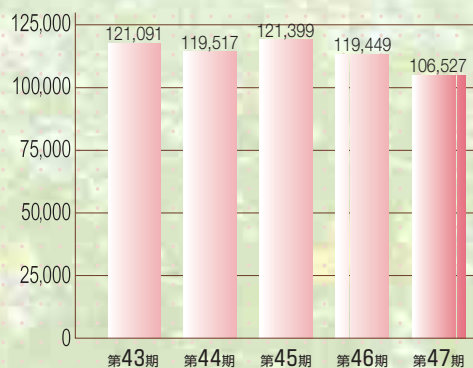
■1株あたり当期純利益又は当期純損失

単位:円



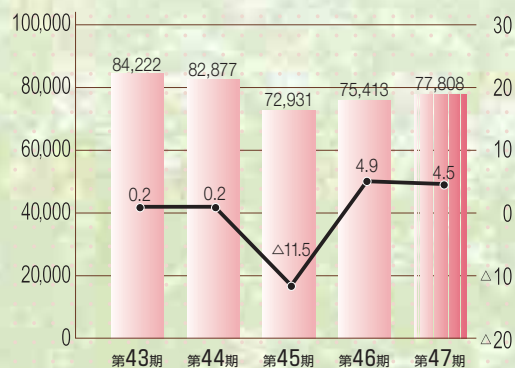
■総資産

単位:百万円



■株主資本・ROE (株主資本当期純利益率)

単位:百万円・%



連結財務諸表

■連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		平成17年12月31日現在	平成16年12月31日現在
資産の部			
流 動 資 産		29,528	35,366
CHECK.1 現金及び預金		7,274	4,609
CHECK.2 受取手形及び売掛金		9,417	12,634
たな卸資産		5,755	9,040
未 収 入 金		2,686	3,922
繰延税金資産		2,501	3,095
そ の 他		1,927	2,113
貸倒引当金		△35	△51
固 定 資 産		76,998	84,083
有 形 固 定 資 産		57,861	64,146
建物及び構築物		15,890	15,086
機械装置及び運搬具		6,871	8,226
販 売 機 器		14,463	14,145
土 地		19,508	19,823
建設仮勘定		85	503
CHECK.3 リース資産		-	4,396
そ の 他		1,041	1,963
無 形 固 定 資 産		3,646	3,508
投資その他の資産		15,490	16,428
投資有価証券		7,540	6,489
長期貸付金		530	610
繰延税金資産		3,604	4,903
そ の 他		4,454	4,928
貸倒引当金		△639	△502
資 産 合 計		106,527	119,449

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

(単位:百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		平成17年12月31日現在	平成16年12月31日現在
負債の部			
流 動 負 債		17,992	26,392
CHECK.4 支払手形及び買掛金		3,891	7,328
CHECK.5 短期借入金		20	3,600
CHECK.5 1年以内に返済の長期借入金		4,244	4,817
未 払 金		4,450	4,869
未 払 法 人 税 等		324	393
未 払 費 用		3,641	3,863
繰延税金負債		5	-
そ の 他		1,415	1,518
固 定 負 債		10,670	17,563
CHECK.5 長期借入金		4,300	11,591
退職給付引当金		1,710	1,368
役員退職慰労引当金		245	253
繰延税金負債		419	416
そ の 他		3,995	3,933
負 債 合 計		28,663	43,955
少数株主持分			
少 数 株 主 持 分		55	80
資本の部			
資 本 金		10,948	10,948
資 本 剰 余 金		10,040	10,040
利 益 剰 余 金		56,024	54,209
その他有価証券評価差額金		849	258
自 己 株 式		△53	△42
資 本 合 計		77,808	75,413
負債・少数株主持分及び資本合計		106,527	119,449

連結貸借対照表

CHECK.1 受取手形及び売掛金

株式会社レックスリース連結除外の影響および他ボトラーに対する売掛金が減少したため、前期末に比べて32億1千6百万円減少しています。

CHECK.2 たな卸資産

日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更に伴い製品在庫等が減少し、前期末に比べて32億8千5百万円減少しています。

CHECK.3 リース資産

株式会社レックスリースの全株式を売却したため、連結の範囲から除外され、同社所有のリース資産が前期末に比べて43億9千6百万円減少しています。

CHECK.4 支払手形及び買掛金

株式会社レックスリース連結除外の影響および日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更に伴って原材料購入が減少したことなどにより、前期末に比べて34億3千7百万円減少しています。

CHECK.5 借入金(長期・短期)

株式会社レックスリースの連結除外の影響および返済により、前期末に比べて長短合わせて114億4千4百万円減少しています。

■連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当 期 平成17年 1月 1日から 平成17年12月31日まで	前 期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
CHECK.6 売 上 高	180,999	193,082
売 上 原 価	101,075	105,115
売 上 総 利 益	79,924	87,967
販売費及び一般管理費	73,790	79,976
CHECK.7 営 業 利 益	6,133	7,991
営 業 外 収 益	394	488
営 業 外 費 用	422	671
経 常 利 益	6,106	7,808
特 別 利 益	686	259
特 別 損 失	1,426	2,761
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	5,366	5,306
法人税、住民税及び事業税	431	597
法人税等調整額	1,475	1,047
少 数 株 主 利 益	(Δ)24	(Δ)22
CHECK.8 当 期 純 利 益	3,435	3,638

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当 期 平成17年 1月 1日から 平成17年12月31日まで	前 期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
CHECK.9 営業活動によるキャッシュ・フロー	24,741	18,500
CHECK.10 投資活動によるキャッシュ・フロー	Δ16,620	Δ15,156
CHECK.11 財務活動によるキャッシュ・フロー	Δ5,465	Δ5,846
現金及び現金同等物の増減額	2,654	Δ2,503
現金及び現金同等物の期首残高	4,579	7,082
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	7,234	4,579

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■連結剰余金計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当 期 平成17年 1月 1日から 平成17年12月31日まで	前 期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	10,040	10,040
資本剰余金期末残高	10,040	10,040
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	54,209	51,792
利益剰余金増加高	3,435	3,638
当 期 純 利 益	3,435	3,638
利益剰余金減少高	1,620	1,222
配 当 金	1,500	1,125
役 員 賞 与	119	96
利益剰余金期末残高	56,024	54,209

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

CHECK.6 売上高

日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更によって、従来当社が製造し、他ボトラーへ販売していたポストミックス製品等の売上高が無くなったこと、前年の猛暑の反動等で販売数量が伸び悩んだことなどにより、前期に比べて120億8千3百万円減少しています。

CHECK.7 営業利益

他ボトラー向けポストミックス製品等の売上が無くなったこと、販売促進費用の減少等により売上原価および販管費は減少しましたが、売上高の減少が影響し、前期に比べて18億5千7百万円減少しています。

CHECK.8 当期純利益

関係会社の売却により特別利益が増加し、前期に発生した特別退職金が無かったことなどにより特別損失は減少しましたが、前期に比べて2億3百万円減少しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

CHECK.9 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及びたな卸資産が前期末から大きく減少したこと等により、前期に比べて62億4千1百万円増加の247億4千1百万円となりました。

CHECK.10 投資活動によるキャッシュ・フロー

販売機器等、有形固定資産の取得による支出139億6千8百万円などにより、投資活動による資金の支出は、前期に比べて14億6千4百万円増加の166億2千万円となりました。

CHECK.11 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の返済等により、財務活動による資金の支出は、前期に比べて3億8千1百万円減少の54億6千5百万円となりました。

単体財務諸表

■単体貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別 当 期 平成17年12月31日現在	前 期 平成16年12月31日現在
資産の部		
流 動 資 産	26,771	31,126
固 定 資 産	74,875	75,677
有形固定資産	53,321	51,918
無形固定資産	3,433	3,145
投資その他の資産	18,120	20,613
資 産 合 計	101,647	106,803
負債の部		
流 動 負 債	18,797	22,719
固 定 負 債	8,889	11,896
負 債 合 計	27,686	34,616
資本の部		
資 本 金	10,948	10,948
資 本 剰 余 金	10,040	10,040
利 益 剰 余 金	52,228	51,006
その他有価証券評価差額金	796	235
自 己 株 式	△52	△42
資 本 合 計	73,960	72,187
負債・資本合計	101,647	106,803

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■単体損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別 当 期 平成17年 1月 1日から 平成17年12月31日まで	前 期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
売 上 高	158,338	170,932
売 上 原 価	92,662	97,333
売 上 総 利 益	65,676	73,598
販売費及び一般管理費	62,001	67,915
営 業 利 益	3,674	5,683
営 業 外 収 益	1,304	1,127
営 業 外 費 用	449	669
経 常 利 益	4,530	6,140
特 別 利 益	951	270
特 別 損 失	1,320	2,723
税引前当期純利益	4,160	3,687
法人税、住民税及び事業税	25	30
法人税等調整額	1,361	1,356
当 期 純 利 益	2,774	2,301
前 期 繰 越 利 益	1,270	1,334
中 間 配 当 額	750	562
当期末処分利益	3,294	3,072

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■利益処分

(単位:百万円)

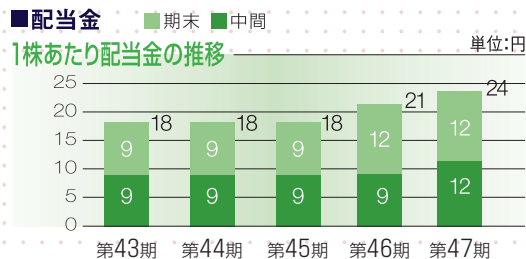
科 目	期 別 当 期	前 期
当期末処分利益	3,294	3,072
合 計	3,294	3,072
利 益 処 分 額	1,781	1,802
配 当 金	750	750
役 員 賞 与 金	31	52
(取締役賞与金)	(28)	(47)
(監査役賞与金)	(3)	(4)
任 意 積 立 金		
別 途 積 立 金	1,000	1,000
次 期 繰 越 利 益	1,512	1,270

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主様への施策

利益配当金のご案内

当社では株主様重視の観点から、平成16年12月期（第46期）の期末配当金より配当金を増額しております。平成17年12月期（第47期）につきましても、期末配当金は1株につき12円とし、中間配当金と合わせて、1株につき年間24円（中間12円）としました。



単元株式数の変更

投資家のみなさまにより投資していただきやすい環境を整えるとともに、株式の流動性の向上を図るため、平成17年6月1日から1単元の株式数を1,000株から100株に変更いたしました。なお、株主数は前期末の5,259名から当期末は8,913名に増加しております。

株主優待制度のご案内

単元株式数の変更に伴い、1,000株以上ご所有の株主様を対象としていた株主優待制度を保有株式数に応じた内容に見直しました。

【株主優待制度の概要】

■対象株主

毎年12月31日現在の当社株主名簿および実質株主名簿に記載された100株以上保有株主のみなさまを対象とします。

■優待内容

次の基準の保有株式数に応じて、年1回贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	当社製品 (700円相当)
500株以上1,000株未満	当社製品 (1,400円相当)
1,000株以上	当社製品 (3,300円相当)

■贈呈時期

毎年4月中旬に、株主名簿に記載された住所へ発送いたします。



※写真はイメージです。実際の優待品とは異なる場合があります。

■株式の状況 (平成17年12月31日現在)

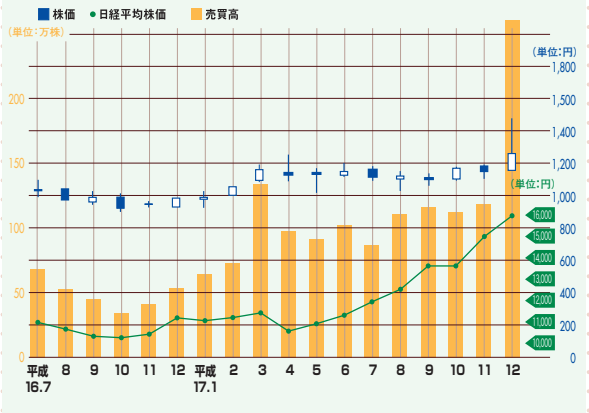
会社が発行する株式の総数：150,000,000株
発行済株式総数：62,591,049株 株主数：8,913名

■大株主の状況 (平成17年12月31日現在)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
麒麟麦酒株式会社	25,779	41.25
三菱重工食品包装機械株式会社	8,674	13.88
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	1,875	3.00
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口	1,708	2.73
近畿コカ・コーラボリング グループ社員持株会	1,691	2.71
神大和株式会社	1,050	1.68
ビービーエイチメリリンチ グローバルアロケーションファンド	1,007	1.61
株式会社弥谷	590	0.94
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505019	457	0.73
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・リミテッド	456	0.73

■株価・日経平均株価・売買高の推移

(株価：大阪証券取引所・売買高：大阪証券取引所、東京証券取引所立会内)



■株主メモ

決 算 期 12月31日

株 主 確 定 基 準 日 12月31日
定時株主総会、利益配当金
中 間 配 当 金 6月30日

定 時 株 主 総 会 3月

名 義 書 換 代 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所 〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物の送付先 〒171-8508
電話照会先 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-707-696 (フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

1 単 元 の 株 式 数 100 株

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
貸借対照表および損益計算書の開示は
当社ホームページに掲載しております。

(インターネットホームページURL) <http://www.kinki.ccbc.co.jp>



●最新情報はこちらで
ご覧いただけます。

お 知 ら せ 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満
株式買取請求に必要な各用紙、および株式の
相継手続依頼書のご請求は、名義書換代理人の
フリーダイヤル0120-86-4490(自動音声応答)
で24時間承っておりますのでご利用ください。

証 券 コ ー ド 2576

会社情報

■会社の概要 (平成17年12月31日現在)

商号 近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立 昭和35年9月9日
本店所在地 大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号
電話 (06) 6330-2222 (代表)
資本金 10,948,108,301円
従業員数 1,353名 (出向者425名が含まれております。)
事業所 大阪府
レギュラーサービス千里丘支店ほか23支店
兵庫県
明石工場、レギュラーサービス尼崎支店ほか15支店
京都府
京都工場、コーヒー焙煎工場、
レギュラーサービス中京支店ほか11支店

(注) 各工場の製造業務は、当社の100%子会社近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社に委託しております。

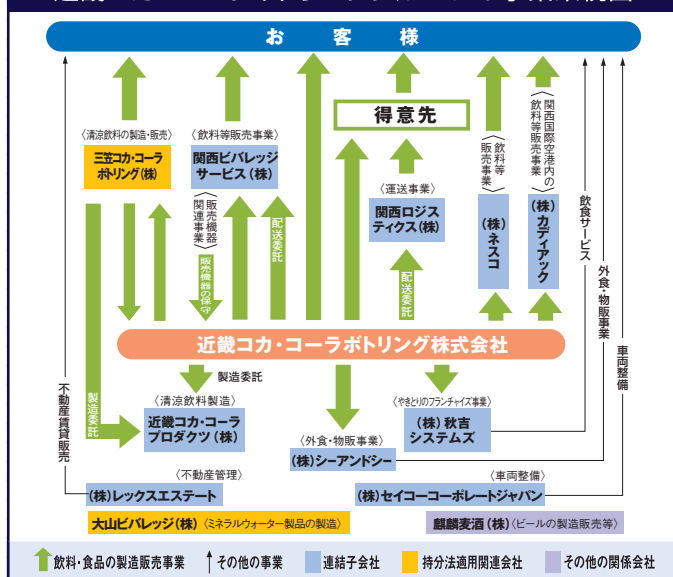
■取締役・監査役 (平成18年3月30日現在)

代表取締役	守 都 正 和
専務取締役	吉 松 民 雄
常務取締役	太 田 茂 樹
常務取締役	浪 花 泰 次 郎
取締役	佐 藤 安 弘
取締役	塙 俊 昭
常勤監査役	武 末 俊 夫
常勤監査役	神 田 博 道
監査役	浅 野 直 子
監査役	京 兼 幸

■執行役員 (平成18年3月30日現在)

社長執行役員	守 都 正 和
専務執行役員	吉 松 民 雄
常務執行役員	太 田 茂 樹
常務執行役員	浪 花 泰 次 郎
常務執行役員	小 桑 崎 憲 之
常務執行役員	吉 永 豊 二 郎
常務執行役員	野 口 彰 優
常務執行役員	網 塚 忠 夫
常務執行役員	戸 口 良 博
常務執行役員	郷 本 礼 次
常務執行役員	藪 本 憲 靖
常務執行役員	吉 澤 憲 司
執行役員	米 田 英 俊
執行役員	清 水 一 志
執行役員	藤 原 清 勉
執行役員	中 村 一 彦
執行役員	新 葉 清 貴
執行役員	山 田 恒 夫
執行役員	池 田 正 雄
執行役員	黒 田 正 雄

近畿コカ・コーラボトリンググループの事業系統図





近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
〒566-8513 大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号

